

§舞台設定

ここではシナリオに直接使用できる舞台設定について説明する。GMは以下の設定を自由に利用・変更してよい。

※以下で記述のある地名、町名、寺社仏閣、人名などはフィクションであり、実在する同名のものとは一切関係はありません。

§大河町

- 町の中央を分断するように幅5mほどの畿内川(きないがわ)が流れている町。
平成の市町村合併により大河町の名前が消えるところだったが、住民の強固な反対により、S県N市大河町という名前が残ることになった。
川は上流からみて右にゆるくカーブしながら町を横切っている。
川の南西側は旧家、その反対は新家という俗称(地元の人しか通用しない言い方)がある。旧家は三貴神を祭る神社を中心に、文化遺産指定されても不思議ではない古い家屋や蔵が立ち並ぶ。逆に新家は、いわゆる新興住宅地であり、現代様式の新しい家々が立ち並ぶ。
畿内川から水を引くことで作られた豊かな田園地帯を持ち、神社が背にしている山からの水質の良い水を利用して地酒でそれらの知名度がある。
畿内川と十字に交差するように"本道(ほんどう)"と呼ばれる広い道(幅約5m)が町を横断している。この道の終点は神社(後述)であり、"参道"とも呼ばれている。

○旧家

- 神社を起点に広がる元々の大河町。約100戸。
古い木造建築が大事に整備されながら保存されている。
公民館、酒屋(酒蔵)、散髪屋、駄菓子屋といった昭和初期のたまたまを残す雰囲気のお店は、すべて旧家にある。
本道以外は狭い路地が多く、行き止まりになっているところもある。行き止まりには地藏尊やお稲荷さんなどが祭られている。

1) 霊貴神社(れいきじんじや)

- 社そのものは小さいながら三貴神を祭る。主神たる天照大神を中央に、両脇に月読命、素戔男尊を祭る社を持つ。
神社そのものは旧家に大して途中で曲がった角の参道の先に建っている。この神社の社から入口の鳥居を結ぶ線は、元日の日の出の方向である。
毎年元旦に天照大神を、5月に素戔男尊を、9月に月読命を主とする祭礼が行われる。基本的に旧家のものがすべてを取り仕切ることが、参道や参道に直結している旧家の本道の両脇には祭り屋台が並び、町全体がにぎわう。

2) 酒屋

- 大きな酒蔵を持ち、「鬼殺し」の名を関する地酒を販売している。
本道の前の店舗は酒屋と居酒屋と並列しており、町民の憩いの場になっている。
居酒屋は、昼間は地元の人と野菜を使ったランチをやっており、新家からもここで昼食を取りに来る住民がいる。
酒屋と言っても酒だけを販売しているのではなく、最近ではワインやシャンパン、ジュースやおつまみなども店頭にならべている。

3) 散髪屋

- サインポールが純和風建築物の柱に取り付けられているが、中身の店舗は完全に現代風のフローリングと明るい内装になっている。
理髪席は2つ。
店舗の横には和室があり、冠婚葬祭向けの着付けなどもここでやってくれる。

4) 駄菓子屋

- 今では少なくなってきた古き良き時代の雰囲気を残す駄菓子屋。
新家にコンビニができたため、一時期売り上げが激減していた。
経営者が代替わりしてから、最新の菓子類も扱い、インターネットを利用した通販も行っている。

5) 霊岩寺(れいがんじ)

- 不動明王(座像)を本尊とする小さな寺。
不動明王は右手に三鈷剣、左手に繻素を持つ一般的なものだが、剣は垂直ではなく斜めに構えられている。
旧家の檀家と墓地を管理しているが、墓地には新家の者の墓も増えている。
境内には寺の名前の由来と言われる、高さ3mに達する石柱があり、しめ縄をつけて祭られている。

6) 公民館

- 旧家のほぼ中央にある二階建ての木造建築。
もともとは地主の屋敷だったが、今では残っている母屋の一部が改修されて旧家の集会所として使用されている。
旧家ではもっぱら「会所(かいしよ)」と呼ばれる。
1階は広い土間と八畳間が3つ、2階は八畳間が2つと六畳間が2つある。六畳間は1つが自治会の事務所、もう1つが倉庫として使用されている。
年3回ある祭りには管理本部が設置され、屋台の管理やトラパルの対処、休憩所として使用される。正月にはこの土間で餅つきが行われ、住民や神社への参拝客にもふるまわれる。8月後半にある地藏盆では、子供たち用のイベント会場としても使用される。

7) 駐在所

- 本道と畿内川の交わる所の旧家側にある白い建物。
明治初期に建てられたものが修繕しながら使用されている。
建物の前は駐車場になっており、普段はミニバトが駐車している。

○新家

- 古い家もあるが、おおむね建て替えられて新築になっているところが多い。
約200戸あるが、住宅地としてはまだ余地がある。

1) 郵便局

- 本道と畿内川の交わる所の新家側にある小さな煉瓦作りの建物。
時代の変化に合わせて内装や機器は変更されているが、全体的に明治や大正の雰囲気が出る外見の建物である。

2) コンビニ

- 大河町の中央にある"本道"と呼ばれる道に面した場所にある。
新家はベッドタウンとしての役割をもっているため、帰宅中の学生や会社員がよく利用する。
扱商品関係上、旧家の一部(特に酒屋と駄菓子屋)からは敵視されている。
店長以外の従業員(バイト含む)は新家の住人。

3) バス停

- 本道が主要幹線道路に交わるころにある、大河町唯一といっているほどの公共交通機関。
時刻表は1時間に2本になっている。
利用者のほとんどが通勤/通学に使用する会社員や学生となっている。

4) 近隣の小学校/中学校/高校/大学

- 一番近い小学校は、大河町から子供の足で歩いて約30分の距離にある。
中学校/高校/大学はさらに離れており、バス通学(大学は一部自転車通学)が普通である。

○霊鬼族と大河町

- 旧家の住人はほぼ霊鬼族である。
霊鬼族としては朱雀の部族に属する。そのため性別や種による偏見はほぼ無い。
普通の人間が数名、旧家の者と結婚して住んでいるが、その彼/彼女は、鬼とわかったうえで結婚したものであり、
旧家にある地藏尊やお稲荷さんは、決まらず手順を踏むことで通り抜けられる空間への門だが、月齢や時間帯によって入れない場合がある。当然入ることができるのは霊鬼族だけである。

○裏旧家

- 行き止まりにある地藏尊やお稲荷さんから入れる亜空間の隠れ里。隠されている

- が、神社と寺からも同様に入力できる場所がある。
この隠れ里は、別名「裏旧家」と呼ばれている。
空間そのものは旧家と神社、その周辺の田園を含めた10km四方ほどの広さがある。
周囲は境界線と呼ばれる霧のカーテンのようなもので囲まれている。この境界線に入ると、真っすぐに進んでいるつもりでもいつの間にか180度反転して元の場所へ戻ってきてしまう。
霊貴神社のある位置には屋敷が建っている。それ以外の建物は、数は少ないが、ほぼ表の世界と同じ配置である。
この屋敷は、この一帯の霊鬼族の長の住まいとなっている。
長はその時代によって交代しているが、基本的に霊角器官をもつ鬼皇や鬼姫がこの屋敷を住まいとする。
この空間は表と連動して昼夜が存在し、空は太陽が、夜は月と星空が見える。空間内の生態循環系を維持するために、表の空気や水の出入りが発生する構造になっている。そのため、表の気候に合わせて四季や雨天が発生する。

○大河町の自治組織

表向きは自治会があり、自治会長が取り仕切るが、独自の集団が存在する。

1) 椿衆(つばきしゅう)

- 表の旧家で神事にあたる神主職とそれを補佐する一団。神主は基本的に長老がなり、その家族や親戚、および神主候補となる予定の者達からなる。

2) 榎衆(えのきしゅう)

- 裏旧家で屋敷に仕える集団。長の生活と屋敷全般を取り仕切る。裏旧家で顔役数名が統率している。表の旧家では自治会の中核メンバーである。

3) 萩衆(ひらぎしゅう)

- 旧家の農家をまとめる集団。今は酒屋の主人がそのリーダーを務める。酒米の他、裏旧家に奉納する米や野菜の生産管理も行っている。表の旧家では農業組合の仕事を担当している。

4) 終衆(ひいらぎしゅう)

- 長に仕える直轄の連衆。長が交代する毎に、長の年齢に近いものが選ばれたため、固定ではない。表の旧家では青年会に相当する集団で、自治会の下部組織のような立ち位置である。

○大河町の住人

ここでは大河町の代表的な住人を紹介する。

1) 神主: 弘原 御隆(ひろはら みかげ) / 男、霊応種

- 霊貴神社の現在の神主。
すでに70歳を越えているが、足腰はしっかりしており、老いを感じさせないきびきびとした動作で神主職をこなす。
神主として一人で全てをこなすわけではないので、家族や親類がサポートしている。
彼よりも下でそこそこの年齢(50~60歳)の者を次の神主候補として従えている。
この町の霊鬼族の中では長老格の一人。

2) 酒屋: 酒井 典男(さかい のりお) / 男、脈動種

- 地元の農業を取り仕切る、町一番の顔役。
懐が深く、行動力もあるため、住民からは頼りにされている。
酒米は185cmであり、旧家では一番大柄。
少々短気なところがあり、口よりも手が出る方が早い。その体格もあって「怒らせると怖い」という印象を持たれており、子供の頃に「酒井の蔵に閉じ込める」という言い回しがある。
一晩中飲んでいてもつづれたことがない。
名酒「鬼殺し」を販売しはじめた張本人だが、そのこだわりは半端ではない。
人間社会で医者になった「酒井 道地」はこの家の出身。

3) 散髪屋: 出雲 正道(いずも まさみち) / 男、脈動種

- 散髪屋の主人。
細身の優美だが、学生時代は陸上部で長距離をやっていた。
手先が器用でなんでもこなす。妻と同じく世話好きのため、いろんなことに首をつっこんでおり、住民からは相談役のように重宝されている。ただし、仕事を放り出してしまふことがあり、この時は妻に引きずるように連行される姿が目撃されている。
旧家では珍しい外部から移住してきた鬼である。

4) 散髪屋: 出雲 みどり(いずも みどり) / 女、人間

- 散髪屋の奥さん。
旧家に住む数人の人間の一人。家の中で力関係は正道よりもみどりの方が上であり、店舗を近代的に改修したのも彼女の手腕による。
旧家に嫁いできた人間としては彼女が初である。対外的には優しく世話好きな印象だが、正道を完全に抑え込める胆力があり、大河町の住人(特に男性)からは影で「鬼族」と呼ばれている。
彼女が良家の生まれで、幼いころから茶道、華道、着付け、裁縫といったものを高いレベルで学んでいる。着付けと裁縫に関してはプロ級であり、これが知られることで旧家の女性陣に受け入れられた。

5) 駄菓子屋: 長石 見輪(ながいし みわ) / 女、脈応種

- 駄菓子屋の若き経営者。
高校卒業後、進学をあきらめて実家である駄菓子屋家業に専念することに決めた。
幼い頃から店の手伝いをする。いわゆる看板娘だった。
最新の菓子類の取り扱い、駄菓子屋のネット販売などは彼女のアイデアである。
学生時代は水泳部に所属。村の田畑の手伝いもよくやっており、その日焼けした肌はある意味トレードマークになっている。

6) 僧侶: 大山 泰山(おおやま たいざん) / 男、脈動種

- 霊貴寺を預かる住職。
7歳を超え年齢で、動きも年相応のゆつたりしたものである。
年齢の割に声が大きく、読経は遠くからでも聞き取れるという。
子供による名前言い間違えから「お山さま」というあだ名があり、町の住民の大半にこの名前が親しまれている。
母子家庭の子供を預かった時、子供に昔話をしたことがある。その話がたいそう面白かったことが広まり、地藏盆には語り部として昔話をするコーナーが作られている。
僧侶となるためにはちゃんと修行してこないといけないため、現在、この住職の後継者は不在の状態になっている。
この町の霊鬼族の中では長老格の一人。

7) 鬼姫: 木葉 咲夜(このは さくや) / 女、脈応種・大角

- 裏旧家の屋敷に住む大角の鬼姫。
身長170cm。その体格は脈動種の血が強くでたものと言われている。
背中まで届く黒髪では、つん。肌は色白、瞳の色は薄い褐色だが、角度によって紫のように見えるため、初めて見たものは皆、その容姿と神秘的な雰囲気から心を奪われるという。
絵に描いたような箱入り娘に育っているが、知識欲が旺盛。専門の家庭教師がつけられており、現代教育は大学レベルまでマスターしてしまっている(他にやるべきがなかったということもあるが)。
わがままに育っているはずだが、意外にも物分かりがいい。
好奇心旺盛なため、なんでも知りたがる。
機嫌良く他人の頭を撫でると言う癖がある(旧家の一部の鬼達はこれを「ご褒美」と呼んでいる)。
鋭くくしつられていたため、常に誰にでも丁寧口調で話す。
「鍛鉄鬼」荒上源斎の子孫の一人で、今でも彼と手紙のやり取りをしている唯一の人物である。源斎に仕える終衆のメンバーは、源斎への手紙をよく運ばされる。
霊鬼族の鬼姫は、7歳までに許婚を決め、16歳には嫁入り、もしくは婿取りをするのが一般的である。大角で霊力も高く、心身ともに問題ない彼女であるが、脈応種という点において(普遍的に脈応種に対する偏見によって)一段下がる扱いを受けている。そのため、許婚は決まらず、18歳になった現在、婚期を過ぎた、いわゆる「行き遅れ」となっている。

8) 郵便局員: 折野 美香(おりの みか) / 女、脈動種

- 郵便局の若手職員。茶髪でポニーテールの髪型がトレードマーク。
暇があったら折り紙を折っている。郵便局の受付の一角には彼女の折り紙コーナーがあり、子供たちには大人気である。

- ・元は玄武の部族の出身。玄武の長「多聞 正成」の子孫。
- ・学生時代は弓道部に所属しており、その基礎は「多聞 正成」からの直伝。
- ・バドミントンを趣味としており、大河町を飛び回るように郵便配達をしている。

- 9) 警官：子角 直之（こかど なおゆき）／♂、霊応種・長命種
- ・霊鬼族の治安維持と人間社会との摩擦を回避するために朱雀の部族から派遣されている警官。
 - ・人間社会でまっとうな手段で警官になっているため、社会的には何ら問題ない。
 - ・警官としての地位は巡査であり、警察組織としては一番下の階級だが、霊応種の知覚力と長命種の知識を持って様々な事件解決の支援（および霊鬼族の存在隠蔽のための裏工作）を行っている。そのため、近隣の県警本部には顔が聞く。
 - ・様々な功績のため昇進するように辞令を受けるが、すべて断っている。
 - ・大河町の駐在員としての派遣は、彼にとって報奨休暇である。
- 10) 警官：子角 阿生良（こかど あきら）／♀、霊応種
- ・婦人警官であり、直之の妻でもある。旧姓は「比良野（ひらの）」。
 - ・日本では珍しい夫婦で駐在所に努める警官である。
 - ・人間社会でまっとうな手段で警官になっているため、社会的には何ら問題ない。
 - ・名前から想像されるとおりの男勝りな性格。
 - ・直之の交代要員として派遣されてきたが、引継ぎのために駐在所に訪れた時点で直之に一目惚れ。約1か月の猛アタックの末に結婚にこぎつけた。
 - ・嫉妬深いといわれる霊鬼族の女性にしては、妙に寛容なところがあり、特に直之が浮気することについては全然気にしないと公言している。
- 11) 咎姫（とがひめ）／♀、脈動種・大角・長命種
- ・霊岩寺にある石柱に封じられている鬼姫。
 - ・理由は不明だが、暴走したところを一族郎党に抑え込まれ、その高すぎる霊鬼力から殺すことができなかったため封印された。この情報を知っているのは、基本的に霊岩寺の住職だけである。
 - ・裏旧家は元々隠れ里として作成されたわけではなく、彼女の膨大な霊鬼力を拡散させ、弱らせるためのものである。そのため、長が住まう空間として利用されるようになったのは、彼女が封印されてから数世紀経過後からであった。
 - ・彼女の力は裏旧家の亜空間を形成し、安定化させるために搾り取られたため、かなり弱体化している。ところが弱体化したおかげで封印が解けかかっており、霊体状態で裏旧家の通りを移動する姿が目撃されている。その姿は、平安時代の女性の旅装束で、市女笠をかぶっているものであった。